

# 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①「主体的・対話的な深い学び」を多く取り入れた授業を実践する。 ②学びを生かした経験を積ませ、工夫や学びを語れる生徒を育成する。 ③生涯にわたり学び続けようとする意思表示ができる生徒を育成する。
担当	学習指導部

学力向上に関わる本校の状況
<p>○おおむね授業に前向きに取り組む生徒が多い。</p> <p>○自らに適した学習の方法がわからず、学力の向上に結び付かない生徒もいる。また、学習そのものに興味関心を抱きにくい生徒もいる。</p> <p>○周囲や保護者からの過度の期待感があり、能力以上の努力を強いられ、逆に伸び悩む生徒もいる。</p> <p>○成績という意味での教科の学力の向上に興味がある生徒は多いが、生きて働くような生涯教育の観点での学びを深められる生徒は少ない。</p> <p>○自らの意見を積極的に発信できる生徒は一部にとどまる。そのため、対話による意見交換で学びを深めることは充分とは言えない。</p> <p>○意見の発信だけでなく、他の意見の許容に未熟さがあり、合意形成力が低い。</p>

今年度の目標
対話を意識した授業実践 ～コミュニケーションによる学びの深めあい～

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<p>○ 各教科で対話を意識した授業を実践する。                      ⇒発言や自らの意見を発信することへの苦手意識を軽減させるべく、各教科の授業において生徒からの発信を意識した授業形態を模索する。なぜそう考えたのか、どうしてそう思うのかなどのプロセスの説明をふまえる発問、課題を用意し、積極的な運用を心掛ける。また、他の意見を受け止め、自らの意見や考えを更新していくことに慣れさせる。</p>
下半期	<p>○ 生徒の成功体験を増やす実践をする。                      ⇒前期の取り組みによってコミュニケーション力、発言力をつけた生徒たちが課題にチャレンジし、結果として答えを導き出す経験を増やす。合意形成力を高め、質の高いプロセスになると考える。</p>